「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー

令和７年度

特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会

プログラム

14:00～15:00　「令和７年度天主台周辺地区の発掘調査成果」
（安土会場のみ 13:00～14:00）　大崎康文（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課主幹）
松田　篤（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課技師）

15:00～16:00　「天主周辺の建物群」
（安土会場のみ 14:00～15:00）　岩橋隆浩（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課主幹）

東京会場　日時：令和８年（2026）３月１日（日）　14:00～16:00
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟 402 室
東京都渋谷区代々木神園町３－１

大津会場　日時：令和８年（2026）３月 15 日（日）　14:00～16:00
会場：コラボしが 21　３階大会議室
滋賀県大津市打出浜２－１

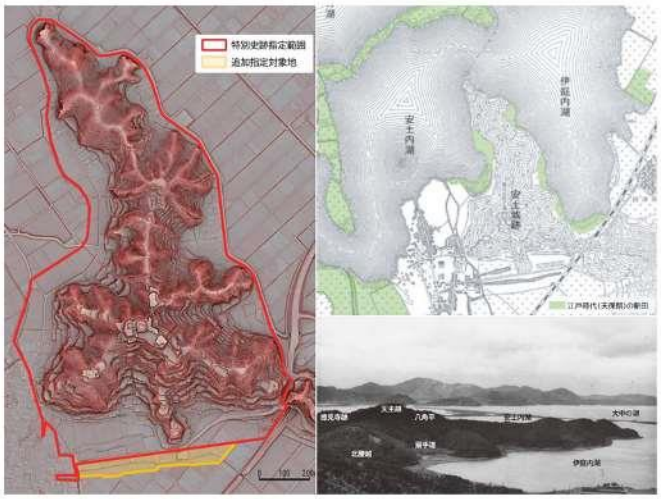
安土会場　日時：令和８年（2026）４月 11 日（土）　13:00～15:00
会場：滋賀県立安土城考古博物館　セミナールーム
滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678

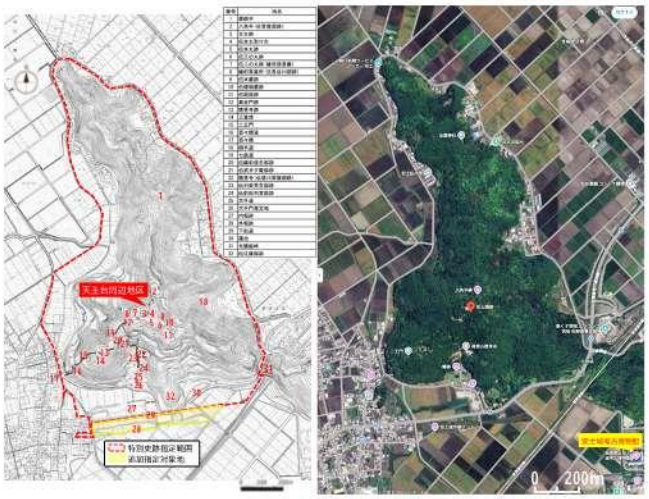
主　催　　滋賀県（文化スポーツ部文化財保護課）

発　行　日：令和８年(2026 年)３月１日・15 日、４月 11 日
編集・発行：滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
〒520-8577　滋賀県大津市京町四丁目１番１号
TEL077-528-4678　FAX077-528-4956　E-Mail　castle@pref.shiga.lg.jp
URL　https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/
「淡海の城」友の会
https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/312347.html

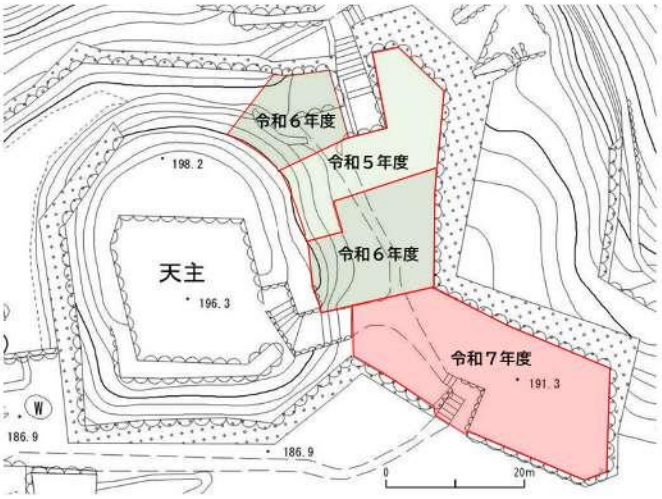
「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー
令和７年度特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会
令和７年度
天主台周辺地区の発掘調査成果
滋賀県文化スポーツ部文化財保護課　大崎陣文・松田 篤

岐阜城跡
長浜城跡
小牧山城跡
清州城跡
安土城跡
坂本城跡
本能寺跡
100km


特別史跡指定範囲
追加指定対象地
安土内湖
伊庭内湖
安土城跡
江戸時代(天保期)の新田


天主台周辺地区
特別史跡指定範囲
追加指定対象地
200m

⑪天主からの琵琶湖
⑫天主台
伝二の丸東虎口
伝黒金門跡⑦
⑧伝二の丸南部
伝本丸南虎口
⑩天主外観
⑥大手道七曲り上
⑤大手道直線部
接見寺跡から見る城下町
④接見寺本堂跡
④伝羽柴秀吉邸上段
③大手道
伝羽柴秀吉邸下段
入山受付
②大手門・大手周辺



令和５年度調査状況（南東から）

令和５年度調査状況（南東から）

令和５年度調査状況（南から）

令和５年度調査状況（東から）

令和７年度調査区調査前

令和７年度調査区調査前

19

平成調査前

20

平成調査前

21

平成調査後

22

平成調査後

23

調査区南側

調査区検出

28

石列延長部検出

29

石列延長部検出

30

礎石検出状況

礎石検出状況

天主穴蔵石段前

天主穴蔵石段前

天主穴蔵石段前

天主穴蔵石段前

図１　伝本丸取付台全体図（S=1/500）

図２　伝本丸取付台東半（S=1/200）

安土城跡天主周辺の建物群

～これまでの発掘調査成果より～

2026.3.15　「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー

令和７年度特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課　岩橋隆浩

はじめに－本日の構成とねらい－

◎安土城の天主台周辺（主郭部）の構造を知る

◎安土城主郭部の建物遺構を見る（特に天主周辺）

◎発掘調査成果などから天主周辺の建物などを考える

◎これからの課題は何かを知る

１．安土城の主郭部とは

◎用語としての「主郭」

主郭・・・城の中心的な郭

◎その位置

安土城内での位置

安土城の中でもっとも標高の高いところ

城内の最高所である天主台を中心とした郭群

天主台・伝二の丸・伝三の丸・本丸取付台・伝本丸・伝長谷川邸跡・二の丸南帯郭

二の丸東溜・三の丸東溜・伝台所・伝米蔵・（伝煙硝蔵・伝堀邸付近・八角平）

主要城内道が集まる所

大手道・百々橋道・七曲道・搦手道

◎その特徴

４つの門で閉じられた空間

黒金門（主郭部西虎口）・主郭部北虎口・本丸南虎口・本丸北東虎口

５つの高さで構成された郭群

①天主台

②伝二の丸・本丸取付台・伝三の丸

③伝本丸・二の丸東溜・三の丸東溜

④伝長谷川邸跡・（伝台所・伝米蔵）・・伝煙硝蔵は？？

⑤二の丸南帯郭（黒金門から二の丸下の通路となっている部分）

※これらに付随する八角平・伝煙硝蔵跡・伝堀邸跡を加えたエリアを主郭部として取り上げる

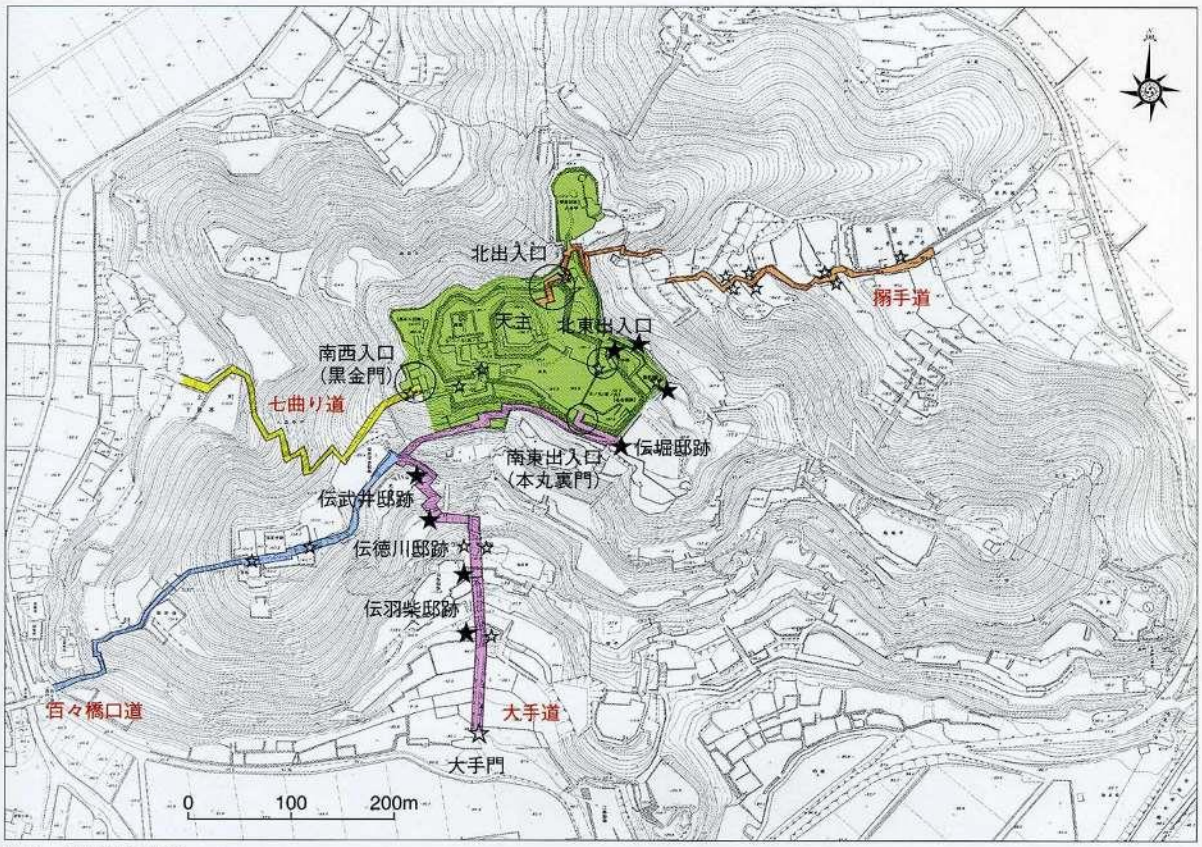
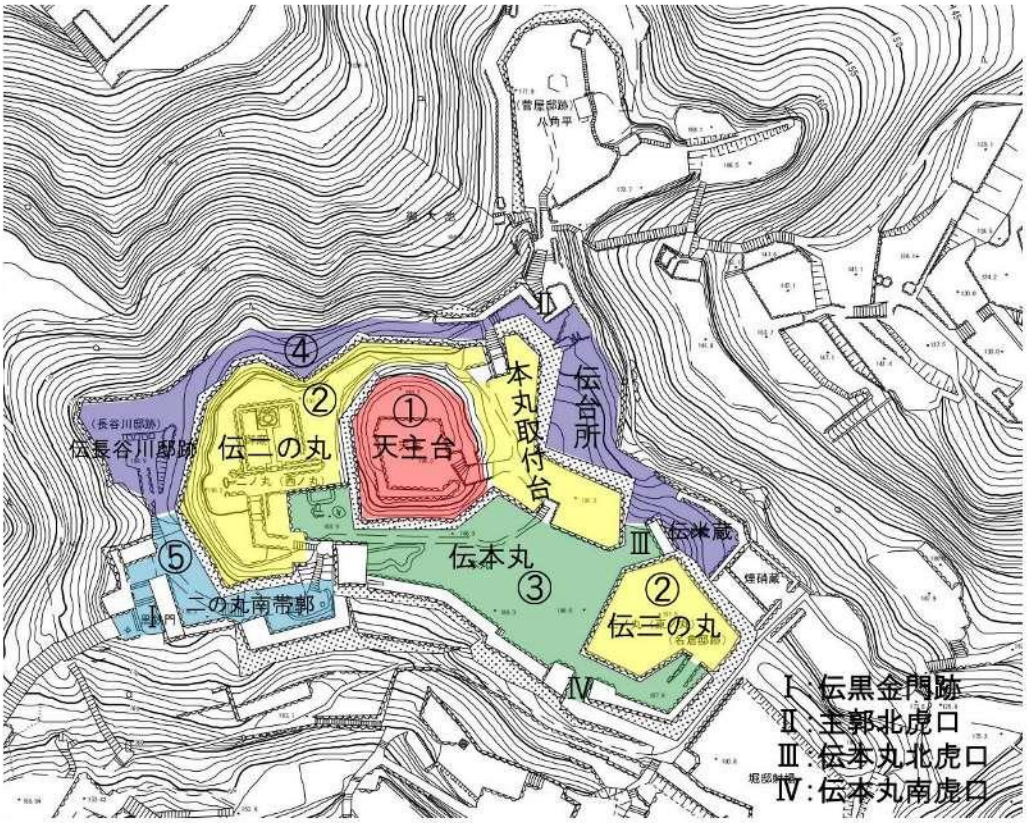


図11　主郭部と城内道



PL１　上：安土城主郭部と城内道（『安土城 1999』より転載）

下：安土城主郭部における各郭の高さ関係

２．安土城主郭部の建物遺構

◎主郭部で検出されている建物関連遺構

表１　安土城跡主郭部とそれに近接する郭等の建物関連遺構一覧

地区	場所	建物に関する遺構	概要
主郭南面	－	－	－
主郭東面	伝堀邸跡	建物礎石	虎口の両脇に礎石群 　建物の一部を検出　石段を挟んで２棟の建物か 郭中心部は未調査（地中レーダー・電気探査＝建物礎石存在の可能性高い）
	伝堀邸跡	南西隅虎口門跡礎石	礎石３基確認
	伝煙硝蔵跡	建物礎石	礎石５基　東西南北方向の礎石列 郭全面に建物か？
	伝米蔵跡	門跡の礎石	礎石５基
	伝米蔵跡	建物礎石列	郭最奥部に礎石５基
	伝台所跡	－	建物に関する遺構は未発見
	主郭外周路	米蔵北方の門跡礎石	礎石４基検出　通路を仕切る門
主郭北面	主郭北虎口	門跡の礎石	通路に複数の礎石（10基） 通路の両脇の石塁上にも建物があったか？
	八角平	建物礎石？	未調査のため不明（露出している礎石あり）
主郭西面	伝長谷川邸跡	建物礎石列	礎石７基確認　Ｌ字の礎石列　建物として広がりそう 調査範囲が限定されており詳細は不明
	黒金門跡	門跡の礎石	３基の礎石が現存
	二の丸南帯郭	門跡の礎石	礎石６基・抜き取り跡２基 「二の門」と推定される遺構
主郭中心部	天主台	天主跡の礎石 天主穴蔵の床面	穴蔵床面に礎石が碁盤目状に並ぶ 穴蔵外周の１階フロア部分の礎石は不明 　＝穴蔵外周の石垣は崩落しているため 穴蔵入口の石段には門跡・・・礎石あり
	伝本丸跡	中心建物跡の礎石群 建物に付随する施設 （葛石と雨落ち溝・石枡・笏谷石製容器・仕切り塀の礎石列など）	東西２棟の建物を南側の廊下状建物で連結 礎石抜き取り跡も含めて礎石配列ほぼ確定 間取りが推定復元されている 建物に付随する様々な施設あり
	伝本丸跡	西半部建物跡の礎石群 建物に付随する施設	中心建物とは方位が異なる建物 本丸南石塁と並行する 建物東端の礎石列と南端の礎石列の一部を検出 東端礎石列の東側には石組み溝＝雨落ち溝？
	伝本丸跡	中心建物と西半部建物の間の礎石群	５基の礎石　中心建物と西半建物を結ぶ施設？
	伝本丸跡	南石塁上建物の礎石	本丸南石塁裾部に小型の礎石が並ぶ＝懸け造り？ 石塁上の礎石は不明
	伝本丸跡	北西隅の礎石	天主台石垣裾部に中心建物に伴わない礎石が２基
	伝本丸南虎口	門跡礎石	虎口内部の通路が左右に分かれる 通路上で礎石４基・礎石抜き取り跡１基検出 　東側通路に礎石３基 　西側通路に礎石１基・抜き取り跡１基
	伝本丸北東虎口	門跡礎石	礎石６基（親柱４・控柱２）
	二の丸東溜	焼失建物跡	天主台石垣裾に半間ごとに置かれた礎石列（１２基） その内側(西側)に１間ごとに並ぶ礎石列（５基） 　炭化した柱・土台が残存 　土台の上には焼けた土壁が立った状態 建物の規模や間取りはわからない
	二の丸東溜	門跡礎石	焼失建物の南側に焼失建物とは別の礎石４基 「三の門」に関連する礎石か？ 南に開口する門と西に開口する門か？
	(仮)三の丸東溜	建物礎石	三の丸東直下と溜東端石塁裾部に礎石（３基） 三の丸建物の南側柱の礎石列上に乗ってくる 平面的な広がりはわかっていない 三の丸へのスロープは築城当初のものではない
	伝三の丸跡	建物礎石群	建物礎石は数グループに分けられる 大型の礎石で構成される一群 小型の礎石で構成される一群 ある程度のくくりとして把握はできるが、建物の規模や棟数はわからない
	伝本丸取付台	北半部建物跡	礎石群・礎石抜き取り跡・建物敷地を仕切る石列 建物のおおよその規模判明 天主台裾側が未調査
	伝本丸取付台	東半部建物跡	礎石群・建物敷地を仕切る石列 建物のおおよその規模判明 礎石の存否を確認できていない箇所あり
	伝二の丸跡	－	信長廟がある。未調査地のため不明。

表１よりわかること

現在確認できているだけで約 30 棟ほどの建物があるようだ

「あるようだ」・・・はっきりしない

⇒建物の一部が確認調査で見つかったが全容は明らかでないものがほとんど

⇒また礎石が露出していることから建物跡があることがわかっている場所もある

この中で門跡は規模が大きくないものが多いので比較的様子がわかるものが多い

門以外の建物跡で全体像がだいたい分かるものは非常に少ない

◎主な建物遺構の概要

①全体の概要

表１を基に概観

②天主台

天主台穴蔵床面で礎石など検出

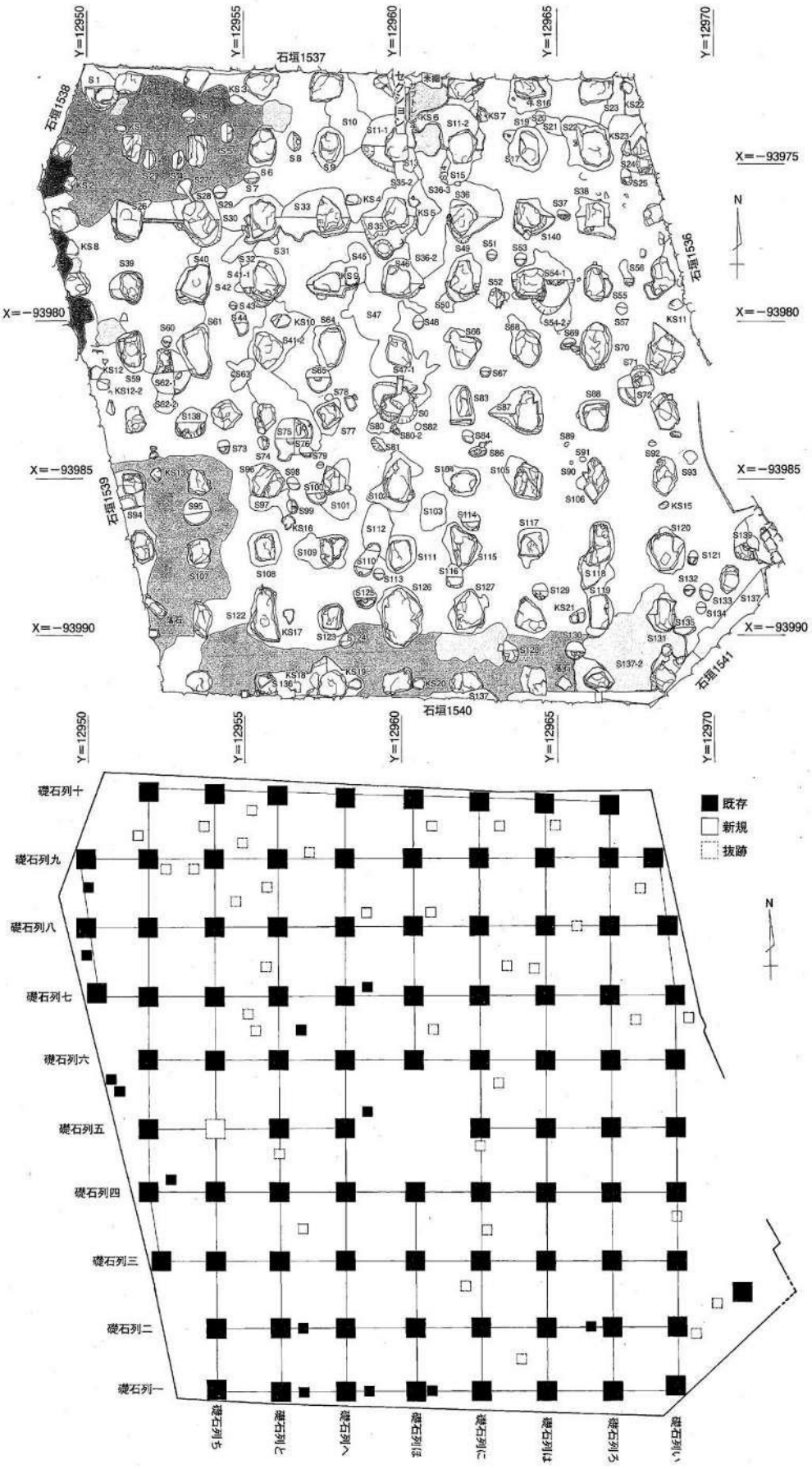
大型礎石は 101 基・・・天主の構造を支える柱の礎石と考えられる

碁盤目状に並んでいるが中心のみ礎石がない

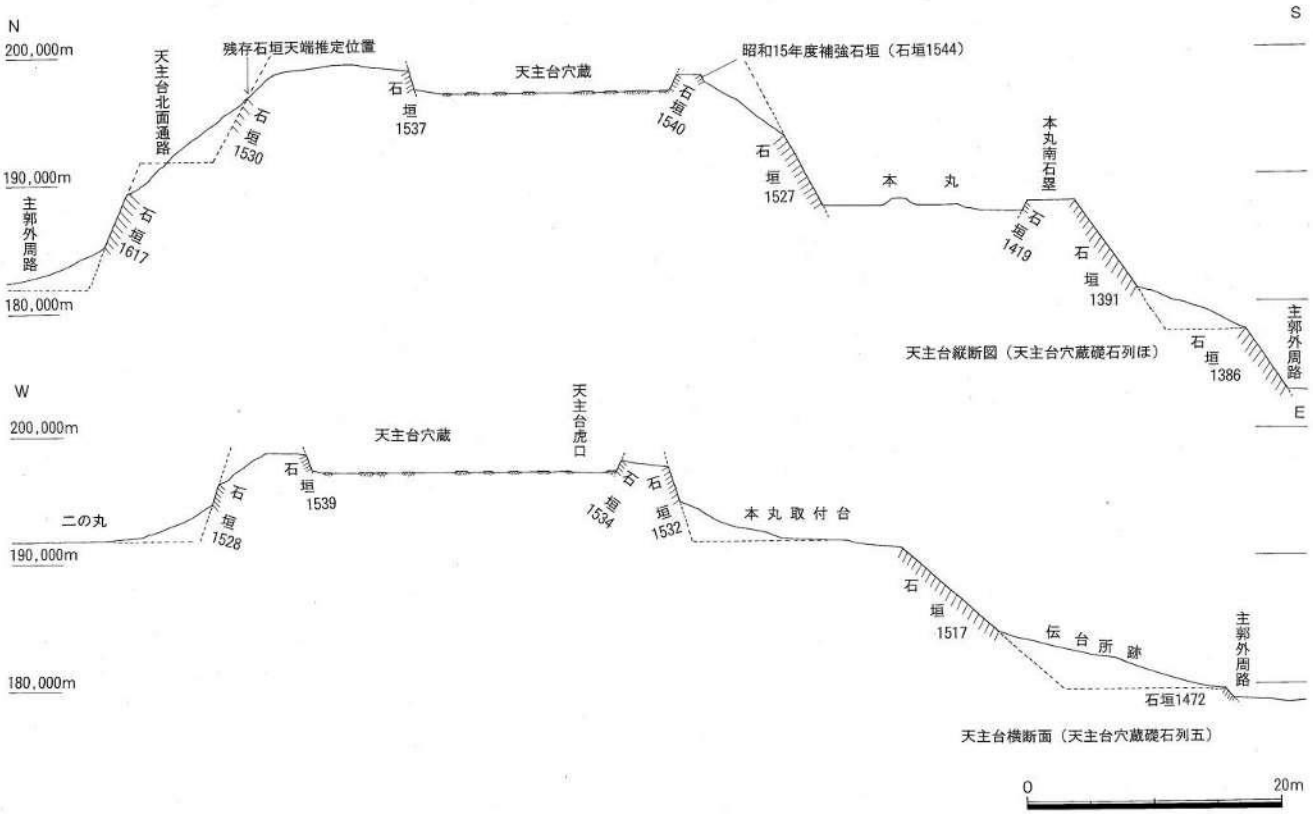
南北列は真北～真南・東西列は真東～真西を指向

柱間は７尺（約 2.1m）と考えられるが、穴蔵の形状に合わせて短い部分もある

PL２　天主台穴蔵発掘調査関連写真（上・下左：礎石と床面　下右：中央ピット）



PL３　天主台穴蔵関連図（上：平面図　下：礎石配置図（200 分の１））



PL４　主郭部縦横断図(600 分の 1)（『発掘調査報告書 12』より転載）

★少し細かく見る

穴蔵中心の礎石がない部分・・・穴がある（中央ピット）

一辺約 1.3mのいびつな方形に見えるが、本体は約 0.7m×約 0.9mの方形

深さは約１mで北側の壁がオーバーハングする

戦前の発掘で一度掘られていた遺構を平成に再調査

用途よくわからない・・・掘立柱の柱据え付け穴？　それ以外の何か？

礎石

大小がある

大：一辺 0.6m～１mほどのかなり大きな石材を使用

戦前の調査で確認したものはすべて平成の調査で確認

被熱の痕跡をとどめるものが多い

原位置から動いているものがある（転倒したり浮き上がったりしたもの）

天主の構造を支える柱の礎石と考えられる

小：一辺 0.3m～0.4mほどの石材

戦前の調査で確認したものと、初めて確認したものがある

被熱した痕跡を残すものと、被熱した痕跡のないものがある

被熱したもの：火災時に床面上に出ていた可能性が高いもの

被熱していないもの：火災時に床面上に見えてなかった可能性が高いもの

用途がよくわからない　束石？足場の礎石？

③伝本丸跡の建物群

◎本丸中心建物

礎石 115 基・礎石抜け跡 21 基　火災による被熱痕のある礎石多い

礎石の大きさは一辺 0.6m～1.1mで天主の礎石と同規模

東西 32.5m×南北 24mの範囲に礎石

柱間は７尺２寸（約 2.15m）が基本だが短い部分もある

建物が指向する方位は天主とは異なる・・伝三の丸や本丸取付台東半建物

建物は２棟の南北棟（西側建物・東側建物）の南側を廊下状の建物でつないだ形

建物に囲まれた空間・・・遺構がない・・・坪庭か？

建物の周囲には様々な施設

建物北側：葛石と雨落ち溝＋石枡(水溜)

建物東側：石枡・笏谷石製容器など

建物中央部：小型礎石列＝仕切り塀？

礎石と礎石抜け跡の配列から建物の間取り復元が可能に

西側建物は『信長公記』に登場する「御幸の御間」のある建物の可能性

＝秀吉が造営した内裏清涼殿に似た礎石配列

東側建物は西側建物に対する裏方の役割？

◎本丸西半部建物

本丸中心建物の西側で検出した礎石群

建物の東辺と南辺の一部を確認　礎石の規模は中心建物と大差ない

柱間は中心建物より狭い（約 2m＝6 尺 7 寸ほど）

東辺礎石列の東には石組溝（雨落ち溝か？）がある

建物が指向する方位は中心建物より西に振る＝本丸南石塁の向きに規制される

この礎石群と本丸中心建物の間に別の礎石群がある

この建物と中心建物をつなぐ建物の存在が示唆されている（戦前の報告書）

伝本丸跡中心建物と伝本丸跡西端櫓台の間の建物か？

◎石塁上建物

本丸中心建物の南側で検出した礎石列　柱間は 6 尺 5 寸（約 1.97m）

礎石列は本丸南石塁裾から 1～1.2mの位置に石塁と平行して置かれている

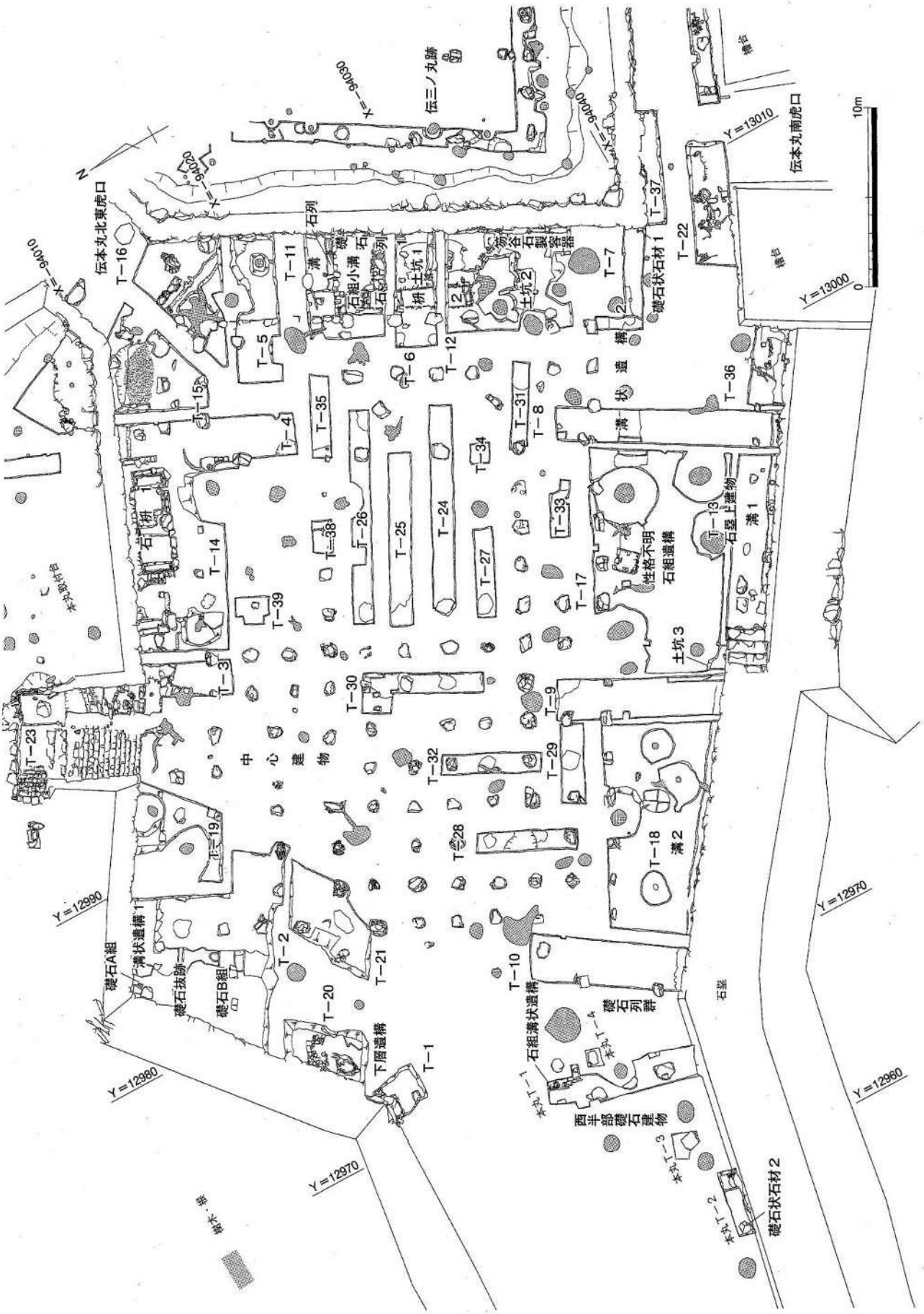
礎石の大きさは一辺 0.3～1mで、大型のものは礎石列西端の 3 基のみ

礎石列の東端には本丸南虎口西櫓台、西端には石塁上に上がる石段

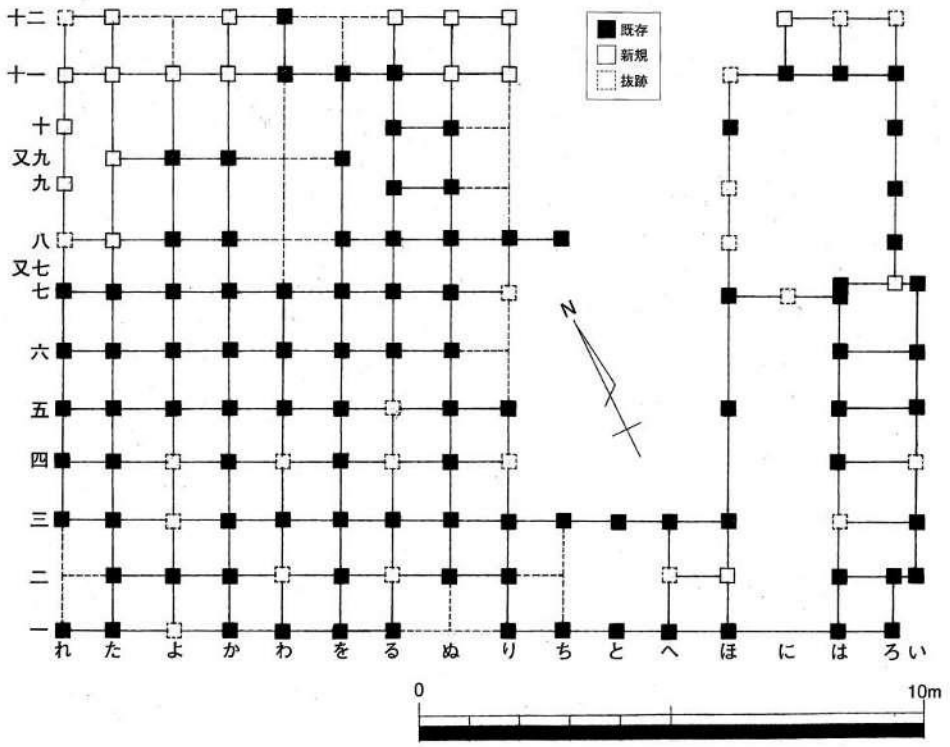
石塁上の多門櫓のような建物で、床面積を稼ぐために懸け造りにしているのか？

⇒姫路城西の丸の渡櫓に類例あり

PL６　伝本丸中心建物と周囲の遺構（上:全景　中①左:雨落溝　中①右:建物北の石枡 中②左：東側建物東の諸施設　中②右：笏谷石製容器　下右：西側建物北西隅付近の調査状況　下左：焼損した礎石）



PL 7　伝本丸跡平面図（300 分の 1）



PL８　伝本丸跡中心建物礎石配置図（150 分の 1）

◎伝本丸跡北西隅付近の礎石

PL７の「礎石Ａ組」「礎石抜跡」「礎石Ｂ組」が該当　２基一対

礎石Ａ組：天主台石垣と本丸取付台石垣の入隅部直下

本丸中心建物より一回り大きな礎石が芯々で 1.2mの距離で置かれている

礎石抜跡は礎石Ａ組の約 2m南に２基

この４基は互いに関連がありそうだが・・・・

礎石Ｂ組：礎石抜跡の約 3m南にやや小型の切石の礎石

２基が芯々約 2mの距離で置かれる

先の４基とは関連はないと考えられる・・・用途はよくわからない

④伝本丸取付台の建物群

◎２棟の建物遺構

いずれも天主や本丸建物の変わらない大型の礎石を用いる

◎東半部建物

本丸中心建物と同じ方位を指向する建物

◎北半部建物

天主と同じ方位を指向する建物

※両建物の敷地を仕切る石列（塀の基礎か？）の存在から、両建物は別棟と考えられる

◎本丸との連絡通路は？

現状では石段を使っていたと考えられる

石段の上を東半建物が覆う可能性を考えていたが・・・

その状況を示す遺構は検出されなかった

また石段の間口が約5mと広いので、建物がその上を覆う可能性は低いとの考え

⇒姫路城西の丸の渡櫓は石垣の切れ目の石段を通じて床下から入る仕組み

似ていると考えていたが、姫路城例では入口の間口はすべて1間(約2m)

PL９　石垣の切れ目と石段（左：安土城本丸と本丸取付台を結ぶ石段　右：姫路城西の丸渡櫓）

⑤伝三の丸跡とその周辺の建物

◎三の丸内部の建物

大型礎石の礎石列

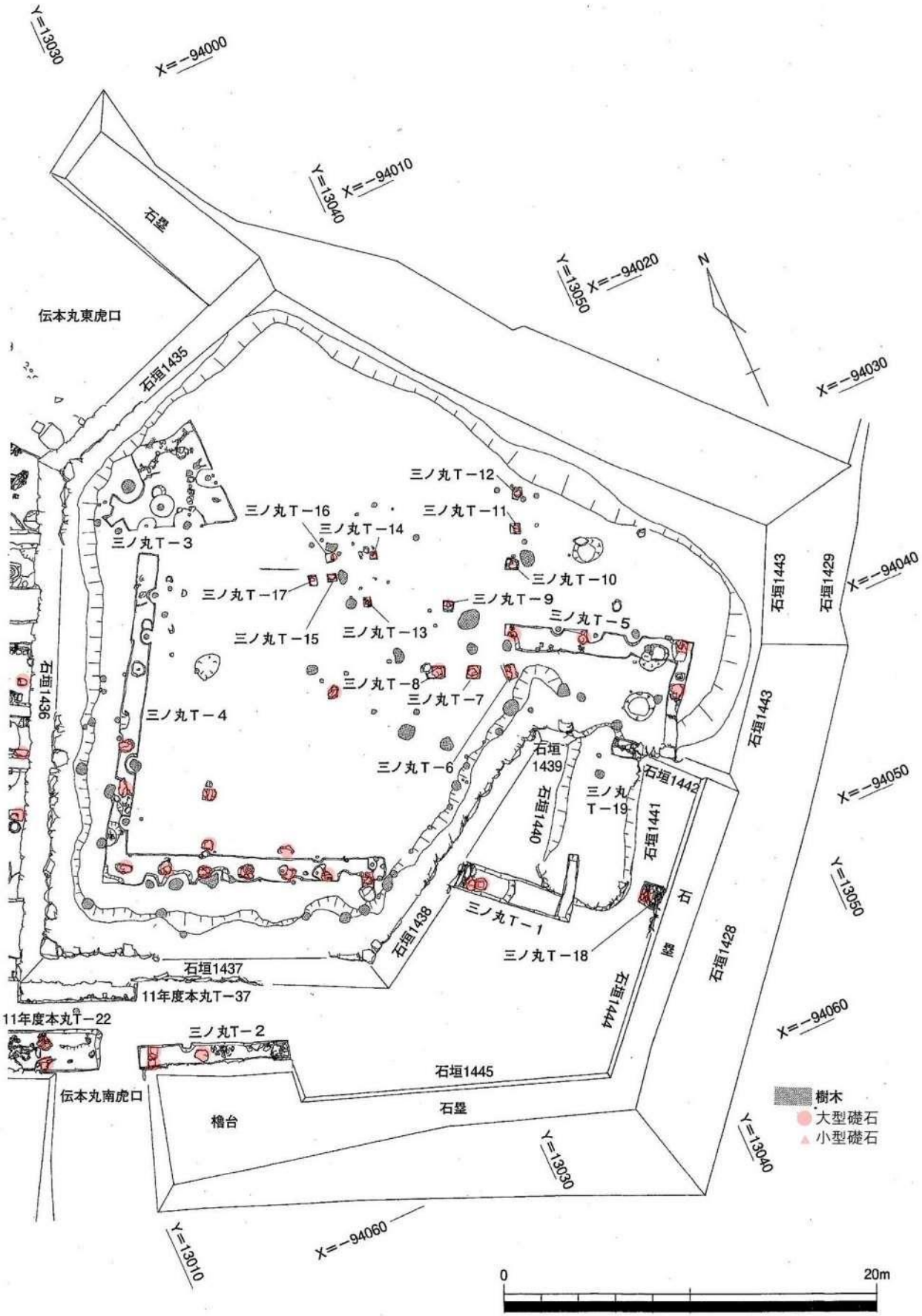
伝本丸跡中心建物と変わらない規模の礎石　柱間も約2.2mで変わらない

郭の西辺と南辺に沿ってＬ字型に礎石列を確認　その内側にも数石の礎石が露出

三の丸全体では大型礎石は郭の南半に多く見られる（今のところ）

南辺礎石列東端の礎石より約6.5m東の三の丸東溜に礎石あり

三の丸東溜から三の丸へのスロープ状通路＝廃城後のものであることが判明



PL10　伝三の丸跡付近平面図（300 分の 1）（総括報告書Ⅱ掲載図に加筆）

小型礎石群

大型礎石群の北東側に分布　一辺 0.2～0.5mほど

柱間などの詳細は不明

小型礎石群中で茶釜が出土・・・この建物の用途の一端を示すのか？？

◎三の丸東溜の調査

三の丸の大型建物よりもやや小さな礎石

三の丸南辺礎石列東端の礎石より約 6.5m東の石垣裾部で礎石検出

さらにこの礎石の東（南辺礎石列の延長線上）でも礎石を検出

スロープ・・・安土古城図には記載があるが廃城後のものと判明

⇒三の丸へ入る手段としての建物が存在したのか？

PL11 伝三の丸跡関連写真(左:建物礎石列 右:三の丸東直下(三の丸東溜)瓦の堆積と礎石

⑥伝二の丸跡とその周辺の建物

◎伝二の丸跡

天主台の西裾にある主郭部の中では最も広い郭

信長廟のある郭

・・これまでに調査の履歴は全くない

◎二の丸東溜

伝二の丸跡と天主台に挟まれた空間　南北 12m×東西 17m

火災にあった建物遺構が見つかった

天主台石垣裾部の礎石列は約 1m間隔で 12 基

その西側 2.1mの位置に 2.1m間隔で並ぶ 6 基からなる礎石列

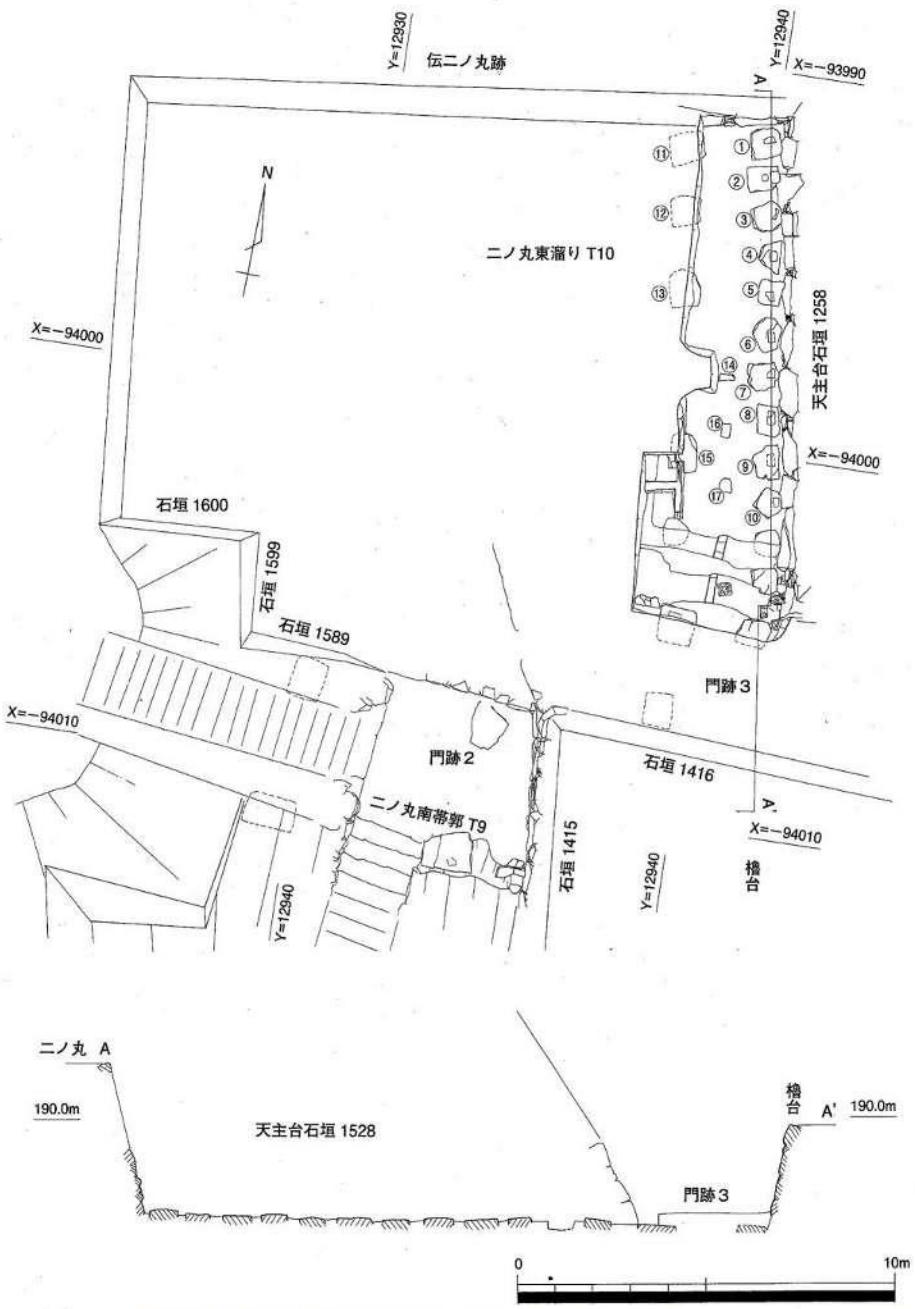
2 列の礎石列の南端の一対は礎石の向きがやや北に傾く

⇒門跡の礎石の可能性もある

炭化した建築材や壁土・瓦など非常に多くの遺物が出土

西側の礎石列では炭化した柱と土台があり土台の上には土壁が残っていた

⇒建物の構造を考えるうえで非常に重要な遺構



PL12　二の丸東溜関連図（上：平面図・立面図(200 分の 1)　下左：焼けた瓦や土壁類

下右：建物遺構検出状況）

PL13　二の丸東溜関連写真（左：建物遺構検出状況　右：炭化した建築部材と焼けた土壁）

３．発掘調査成果などから天主周辺の建物などを考える

◎建物の方位に関すること（特に天主台と本丸周辺について）

①天主と同じ向きのもの

本丸取付台北半部建物

②本丸中心建物と同じ向きのもの

本丸取付台東半部建物　三の丸の建物群　三の丸東溜建物

③それ以外

本丸西半建物　本丸南石塁上の建物　二の丸東溜建物　各虎口の門

※①と②で注意すべき点・・・建物同士のつながりがある可能性

◎上下の郭のつながり（特に天主台と本丸周辺について）

※どうやって隣接する郭間を行き来していたのか？？

①二の丸と二の丸東溜

②三の丸と三の丸東溜

①と②で現在見えている石段やスロープは当時のものなのか？

⇒いずれも『古城図』には記されているが当時のものではない

建物が存在することは確実⇒単なる溜状の空間ではない

それぞれから二の丸・三の丸へ上がるための建物があったのでは？

③本丸取付台と本丸

④天主と本丸取付台

③と④はいずれも石段で接続

③では本丸建物から石段を通って本丸取付台東半建物へ（建物の西側に入口か）

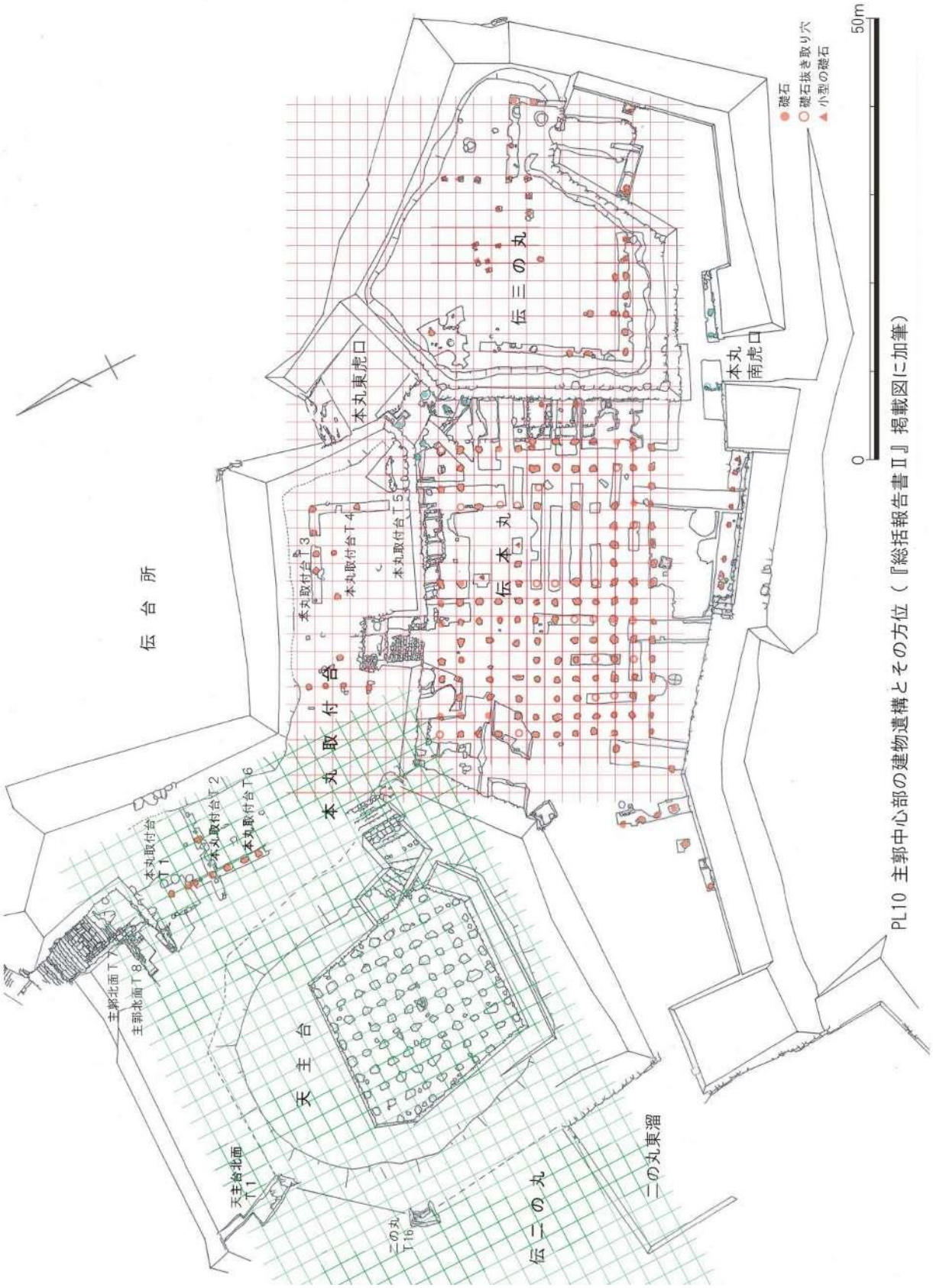
④では本丸取付台両建物の間から石段を通って天主穴蔵へ

天主穴蔵を通るルート・・・天主に招く客を通すにふさわしい通路か？

天主１階に直接上がれる別のルートがあった可能性はないのか？

本丸取付台北半建物付近や本丸北西隅付近、二の丸方向からの可能性は？

※個々の建物跡の遺構がすべてわかる例はほぼない⇒可能性についての見解は言えるが・・・



PL10 主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）

PL14　主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）

４．これからの課題（特に建物遺構を考えるには・・・）

◎遺構の確実な調査

中途半端な調査にならないように・・・

有無をはっきりとさせる

特に建物は礎石の有無で間取りや規模が変わってくる

※ただしどうしても調査ができない部分は出てくる

◎建物が指向する方位の境界部分はどうなっているのかの解明

例：本丸取付台北半建物と本丸取付台東半建物の間の空間

⇒　昨年課題として挙げていた・・・通路であった

◎郭を越えた建物の検討

郭内で本当に建物は収まるのか？

郭内で完結する建物とそうでは無い建物がある事を認識する必要がある

ただし・・・

上下の郭の建物の接続を考える場合に必要な情報が失われている場合が多い

⇒石垣天端付近の遺構が石垣の崩落等によって失われている

◎建物遺構を考えるには・・・

建物敷地の境界があるはず⇒雨仕舞をしていると考えられるから

これを見つけることによって建物の規模や境界がより明確に

⇒これまで意外と確認できていない

確認例：本丸中心建物の北・西・東（PL14 参照）

本丸中心建物の北側に雨落ち溝があるということは・・・

本丸取付台東半建物と本丸中心建物は一連のものではない

ただし一部が接続していた可能性はある

引用文献

本資料に使用した図および写真の出展元は以下のとおりである。

安土城跡の写真は滋賀県所蔵のもの（姫路城の写真は発表者撮影）

図は『特別史跡安土城跡発掘調査報告書Ⅱ－主郭、搦手道の調査及び総括－』に掲載のものから引用した。同書は『総括報告書Ⅱ』と略称で表記

他の引用元がある図は引用元を図のタイトルの末尾に略して表記した

『安土城 1999』＝『安土城・１９９９』

『発掘調査報告書 12』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 12　－主郭中心部天主台・本丸・本丸取付台・伝名坂邸跡の調査』